

JANOME



第82期中間報告書

(2007年4月1日～2007年9月30日)

蛇の目ミシン工業株式会社

証券コード：6445





代表取締役社長

加藤 隆一

株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より暖かいご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

ここに第82期上半期（2007年4月1日から2007年9月30日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

(1) 経営成績

当中間連結会計期間における世界経済は、依然として原油高が続くとともに、米国経済の減速懸念など、先行き不透明感が広まっております。

こうした状況の中、当社グループは、競争力のあるグローバルな生産体制を構築するため国際生産本部を新設するなど組織再編を行ないつつ、効率的経営の推進と事業基盤の強化を図ってまいりました。

しかしながら、次のような要因により、当社グループの総売上高は、**231億1千6百万円**となりました。また、**経常利益は3億6百万円**、**当期純利益はマイナス3億5千5百万円**となりました。

イ. 国内販売の想定外の落ち込み

訪問販売を取り巻く環境が厳しくなっている状況下、当社は、ソーイング教室の展開等を通じて、消費者の皆様にミシンを使っのモノづくりの楽しさを理解していただき需要の維持・拡大を図っておりますが、こうした施策が市場に浸透するには予想以上に時間を必要としております。

ロ. 原材料価格の高止まりの影響

引き続き原材料価格が上昇傾向にありますが、当社は生産効率の継続的な向上を図ると同時に、本年4月に国際生産本部を設置し、全体最適のもとに生産の平準化を推進しております。しかし、低価格機種の価格競争が厳しい中、原材料価格上昇分の価格転嫁が一部遅れたことにより、原価率が上昇しております。

ハ. M&A効果の遅れ

当社グループの成長を目指し、昨年8月に海外ミシン販売会社、本年2月に国内ミシン製造会社を買収い

たしましたが、買収後の販売体制の再整備に思いの外手間取り、損益面での貢献が少なかったのに対して、のれん代の償却が発生しており、当中間期としては、損益悪化要因となっております。尚、この体制整備もほぼ終了し、下半期以降においては買収効果を期待できる状況となっております。

ニ．投資有価証券評価損の特別損失計上

米国におけるサブプライムローン問題の発生により、当中間期末において株価が下落しておりますが、当社保有株式の一部に期末時価評価において特別損失が発生しております。

ホ．海外子会社の配当実施による法人税額の増加

海外子会社からの受取配当金につきましては、連結上は消去されますが、それに係る法人税につきましては消去されず、税引前中間純利益以上の税額となったため、連結中間純利益は欠損となっております。

次に、当中間連結会計期間の事業セグメント別の概況をご報告いたします。

<マシン関連事業>

当社グループは顧客ニーズに応える新機種の開発およびマシン関連ソフト・アクセサリーの充実を進めるとともに、新規市場の開拓、ディーラーに対する販売支援を強化するなど積極的な販売促進に努めました。

海外市場においては、北米における景気動向に不透明感が増す中、エルナブランドの増加、中南米・中東地域での売上拡大、新規市場の開拓により増収となりました。

国内市場においては、訪問販売を取巻く環境が一段と厳しさを増したことや、マシンの低価格化により想定外の影響を受けました。継続して、ソーイング教室の展開、販売促進キャンペーン、各種展示会への積極的な出展等を通じてマシン需要の喚起に努めております。

以上の結果、**マシン関連事業の総売上高は、173億2千8百万円**（前年同期比3億1千8百万円増）となりました。

<産業機器事業>

主要商品の卓上ロボット、スカラロボットなどのロボットシリーズおよびエレクトロプレス部門は、自動車関連業界を中心に好調に推移しました。

また、ダイカスト鑄造部門につきましては、本年2月に当社グループに加わったハウセイ工業㈱の売上が寄与したほか、真空注型装置、小ロット鑄造の売上拡大にも注力した結果、**産業機器事業の総売上高は、27億円**（前年同期比3億1千1百万円増）となりました。

<24時間風呂・情報処理他サービス事業>

24時間風呂販売、ITソフトウェア・情報処理サービス、24時間風呂の据付・メンテナンスサービスなどに、不動産賃貸収入を加えた**24時間風呂・情報処理他サービス事業の総売上高は、30億8千6百万円**（前年同期比6億5千9百万円減）となりました。

(2) 財政状態

当社グループの当中間連結会計期間末の**総資産は、608億4千3百万円**（前年同期比9億8千1百万円増）

となりました。

負債の部では、有利子負債が前年同期に比べ12億1千5百万円増加したこと等により、**394億9千8百万円**（前年同期比12億9千3百万円増）となりました。

純資産の部（少数株主持分を含む）は、**213億4千5百万円**（前年同期比3億1千1百万円減）となりました。

当中間連結会計期間のキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

売上債権、たな卸資産の増加を主因として、**5億8千万円のマイナス**となりました。（前年同期比9億8百万円減）

＜投資活動によるキャッシュ・フロー＞

ジャノメダイカスト(株)の工場建替4億2千万円、産業機器営業のサービス拠点であるJ'Sビル名古屋の建設費用1億2千万円、金型・機械装置等投資2億1千万円等の合計9億5千万円の設備投資に伴う支出を主因に、**5億3千7百万円のマイナス**となりました。（前年同期比12億5千5百万円増）

＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

短期借入金増加を主因に、**15億4千2百万円のプラス**となりました。（前年同期比24億7千1百万円増）

以上の結果、当中間連結会計期間末における**現金及び現金同等物**は前期末から5億3千2百万円増加し

35億9千9百万円となりました。

(3) 通期の見通し

ミシン関連事業に関しては、海外におけるエルナブランド製品の販売体制も整い、ジャノメとエルナの2大ブランドを有効に活用して、販売拡大に結びつけることができると考えております。また、当上期末に投入した新製品効果と、前期末に投入した4針刺繍機の販売により、高付加価値製品の拡販に努め、増収増益を図ります。更に、価格競争も沈静化しつつあり、当社製品の持つ品質面の優位性を前面に出しての価格の見直しも可能になると考えております。

国内においては雇用形態の多様なJスタッフ制度の活用による国内営業部隊の強化を図ると同時に、ソーイング教室展開等を通じて、モノづくりの楽しさ普及によるミシン需要の継続的な喚起を図ってまいります。また、エルナブランドミシン、家庭用アイロンプレス機といったエルナ製品の投入が販売に寄与するものと考えております。

産業機器事業では、国内外にサービス拠点の設置を進めており、サービス体制の充実による販売強化が図れるものと考えております。また、アルミダイカスト加工鑄造につきましても、山梨、兵庫、タイの3拠点を有効に活用しながら事業の拡大を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

ホームページ <http://www.janome.co.jp>

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表 (2007年9月30日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	25,429	流動負債	20,411
現金及び預金	4,304	支払手形及び買掛金	4,805
受取手形及び売掛金	9,290	短期借入金	9,798
有価証券	769	一年以内返済予定の長期借入金	1,392
たな卸資産	9,271	一年以内償還予定の社債	1,250
繰延税金資産	1,228	未払法人税等	236
その他	759	賞与引当金	732
貸倒引当金	△ 194	その他	2,195
固定資産	35,414	固定負債	19,086
有形固定資産	25,349	社債	1,975
建物及び構築物	5,042	長期借入金	6,576
機械装置及び運搬具	1,342	再評価に係る繰延税金負債	5,137
土地	16,811	退職給付引当金	4,305
建設仮勘定	982	その他	1,091
その他	1,170		
無形固定資産	2,220	負債合計	39,498
のれん	1,575	(純資産の部)	
その他	644	株主資本	16,392
		資本金	11,372
投資その他の資産	7,843	資本剰余金	823
投資有価証券	1,865	利益剰余金	4,520
繰延税金資産	4,907	自己株式	△ 324
その他	1,180		
貸倒引当金	△ 110	評価・換算差額等	4,232
		その他有価証券評価差額金	135
		繰延ヘッジ損益	△ 2
		土地再評価差額金	4,369
		為替換算調整勘定	△ 270
		少数株主持分	720
資産合計	60,843	純資産合計	21,345
		負債・純資産合計	60,843

中間連結損益計算書 (2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	23,116
売上原価	12,608
売上総利益	10,507
販売費及び一般管理費	10,089
営業利益	417
営業外収益	
受取利息	29
受取配当金	26
為替差益	95
その他	88
営業外費用	
支払利息	219
有価証券運用損	36
その他	95
経常利益	306
特別利益	
投資有価証券売却益	82
その他	9
特別損失	
投資有価証券評価損	156
無償修理費用	101
固定資産売却及び除却損	28
税引前中間純利益	111
法人税、住民税及び事業税	254
法人税等調整額	189
少数株主利益	23
中間純利益	△355

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△580
投資活動によるキャッシュ・フロー	△537
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,542
現金及び現金同等物に係る換算差額	107
現金及び現金同等物の増減額	532
現金及び現金同等物の期首残高	3,067
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,599

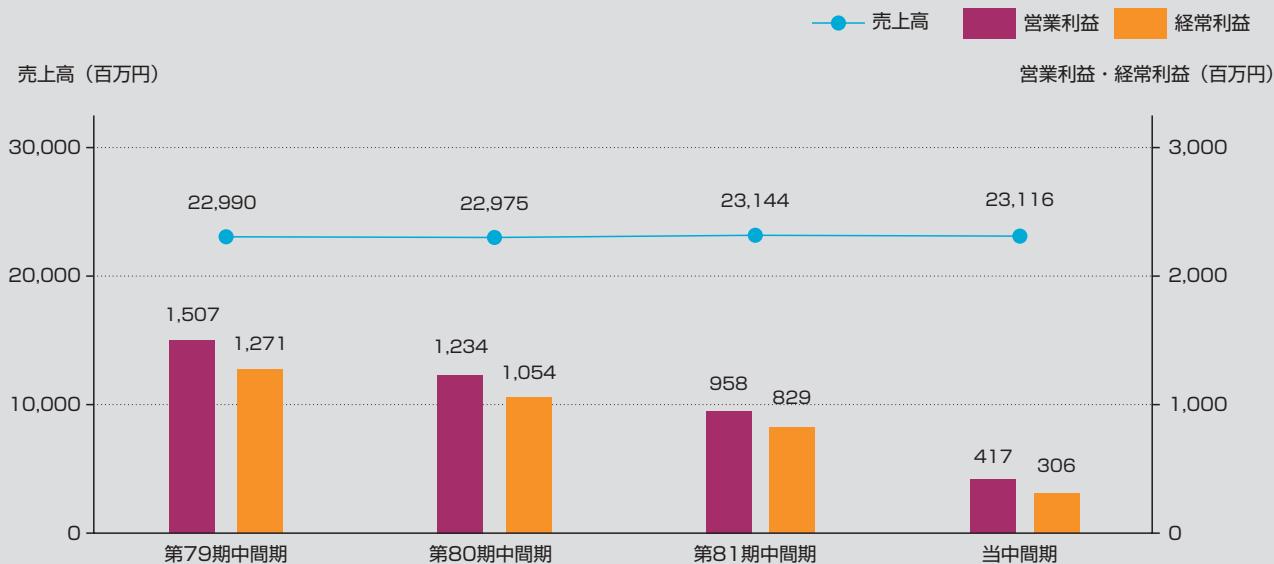
中間連結株主資本等変動計算書 (2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位: 百万円)

	株 主 資 本					評価・換算 差 額 等	少数株主持分	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2007年3月31日 残高	11,372	823	5,266	△ 4	17,457	4,216	699	22,373
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△ 390		△ 390			△ 390
中間純利益			△ 355		△ 355			△ 355
自己株式の取得				△ 320	△ 320			△ 320
自己株式の処分				0	0			0
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)						16	21	37
中間連結会計期間中の変動額合計	-	-	△ 745	△ 320	△ 1,065	16	21	△ 1,028
2007年9月30日 残高	11,372	823	4,520	△ 324	16,392	4,232	720	21,345

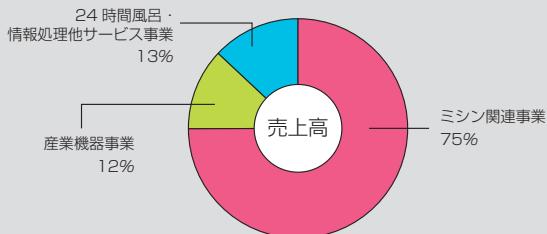
中間連結決算推移

●売上高・営業利益・経常利益

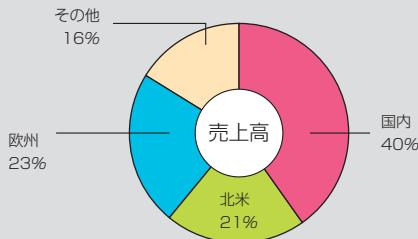


●連結セグメント情報 (2007年4月1日~2007年9月30日)

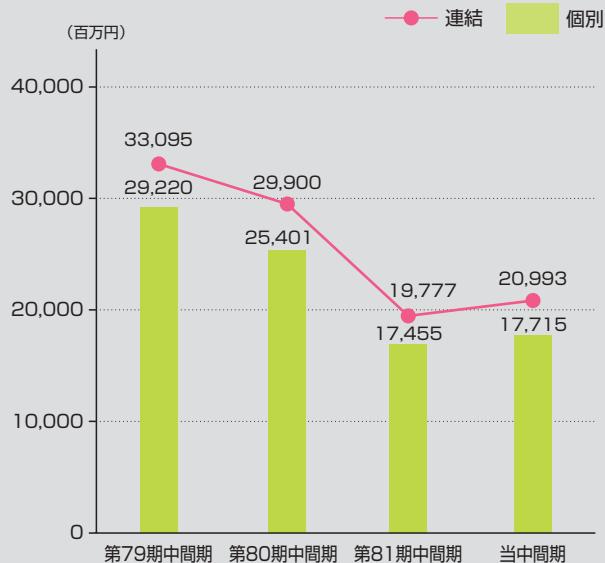
事業の種類別セグメント



地域別セグメント



●有利子負債残高推移

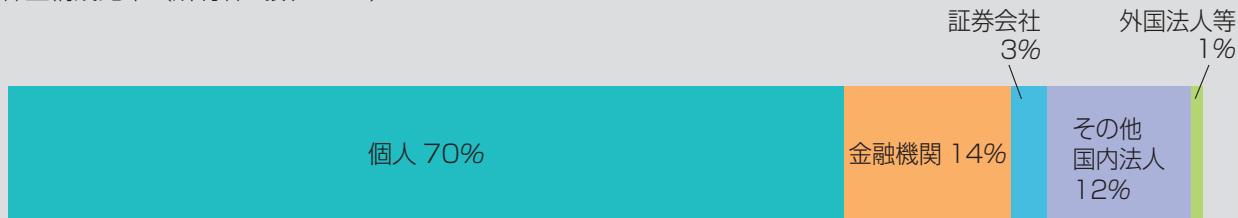


株式の状況

発行可能株式総数 3億6,000万株
 発行済株式総数 1億9,521万4,448株
 当期末株主数 23,953名 (前期末比559名減)

(2007年9月30日現在)

株主構成比率 (所有株式数ベース)



中間個別財務諸表

中間個別貸借対照表 (2007年9月30日現在)

(単位: 百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	17,350	流動負債	17,951
現金及び預金	2,681	支払手形	287
受取手形	982	買掛金	6,826
売掛金	7,331	短期借入金	7,000
有価証券	769	一年以内返済予定の長期借入金	1,130
たな卸資産	2,189	一年以内償還予定の社債	1,250
その他	3,405	未払費用	610
貸倒引当金	△ 10	未払法人税等	87
		賞与引当金	347
		その他	411
固定資産	35,102	固定負債	17,380
有形固定資産	20,866	社 債	1,975
建 物	3,898	長期借入金	6,360
土 地	15,797	再評価に係る繰延税金負債	5,137
その他	1,170	退職給付引当金	3,024
		その他	884
無形固定資産	537	負債合計	35,331
		(純資産の部)	
投資その他の資産	13,698	株主資本	12,617
投資有価証券	1,776	資本金	11,372
関係会社株式	6,560	資本剰余金	823
繰延税金資産	4,336	利益剰余金	746
その他	1,132	自己株式	△ 324
貸倒引当金	△ 107	評価・換算差額等	4,502
		その他有価証券評価差額金	135
		繰延ヘッジ損益	△ 2
		土地再評価差額金	4,369
		純資産合計	17,120
資産合計	52,452	負債・純資産合計	52,452

中間個別損益計算書 (2007年4月1日から2007年9月30日まで) (単位: 百万円)

科 目	金 額
売上高	18,057
売上原価	12,572
売上総利益	5,485
販売費及び一般管理費	5,105
営業利益	379
営業外収益	632
営業外費用	267
経常利益	745
特別利益	82
特別損失	302
税引前中間純利益	525
法人税、住民税及び事業税	149
法人税等調整額	200
中間純利益	176

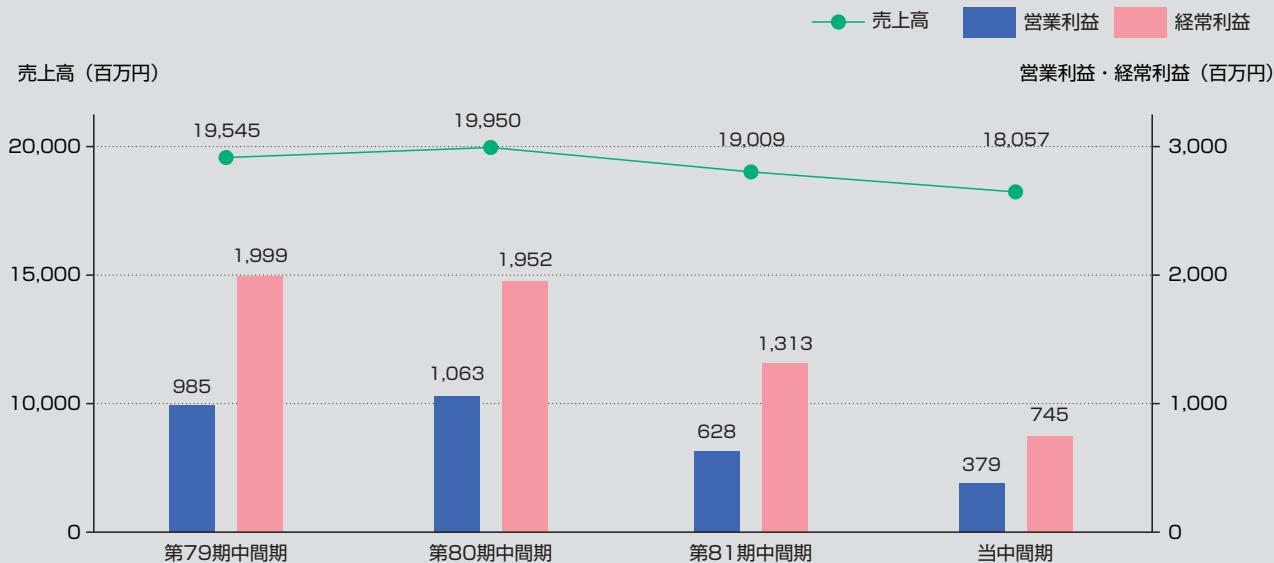
中間個別株主資本等変動計算書（2007年4月1日から2007年9月30日まで）

（単位：百万円）

	株 主 資 本					評価・換算差額等	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計		
2007年3月31日 残高	11,372	823	960	△ 4	13,152	4,512	17,664
中間会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△ 390		△ 390		△ 390
中間純利益			176		176		176
自己株式の取得				△ 320	△ 320		△ 320
自己株式の処分				0	0		0
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額（純額）						△ 10	△ 10
中間会計期間中の変動額合計	-	-	△ 213	△ 320	△ 534	△ 10	△ 544
2007年9月30日 残高	11,372	823	746	△ 324	12,617	4,502	17,120

中間個別決算推移

●売上高・営業利益・経常利益



“Renewal & Growth (更新と成長)”

ジャノメダイカスト新1号棟が完成 (2007年9月27日)



当社グループのジャノメダイカスト株式会社（山梨県都留市）の新1号棟（2007年1月6日着工）が完成し、竣工式が行なわれました。

新1号棟は延べ床面積3,384㎡。旧工場棟の約1.5倍の広さに拡張され、新規に800トンダイカストマシン2台が導入されました。この結果、ジャノメダイカスト株式会社の生産能力は大幅に向上します。

東京工場新2号棟が完成 (2007年10月3日)

東京工場新2号棟（2006年12月12日着工）が完成し、竣工式が行なわれました。

新2号棟は3階建て、延べ床面積8,476㎡。この新2号棟の完成により、特に産業機器製造の精密加工・組立能力が向上し、東京工場がマザー工場として更に発展することが期待されます。



ジャノメタイランド(株)、マシン出荷累計500万台達成 (2007年9月13日)

当社グループのジャノメタイランド株式会社は、去る9月13日にマシン出荷累計500万台を達成いたしました。

今年は日タイ修好120周年にあたり、出荷500万台目にあたるコンテナは、その修好記念ロゴマークに用いられている日本の国花“桜”とタイの国花“Raja-Pruk”の絵柄で装飾されました。

ジャノメタイランド株式会社では、1988年9月からマシン生産を開始し、2006年1月に出荷累計400万台を達成してから2年に満たない短期間で、このたびの出荷累計500万台達成に至ったものです。

現在、同社では主に普及タイプのマシンを生産しており、2006年度は60万台の生産を行ないました。

今後も「お客様の要求に合った品質・コスト・納期で製品を提供し、満足と信頼を得る」との品質方針を徹底推進し、次の区切りとなる1000万台の達成に向けて努力していきます。



株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	6月下旬
基準日	3月31日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (電話照会先) (郵便物送付先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
株式取扱手数料	名義書換……………無料 新券交付……………1枚につき200円 单元未満株式の買取りおよび買増し ……………株式の売買の委託に係る手数料 相当額として別途定める金額
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞 貸借対照表および損益計算書に関する情報は、当社ホームページ http://www.janome.co.jp に掲載しております。

お知らせ

◎住所変更、单元未満株式買取および買増請求、名義書換請求、株券喪失登録手続に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

- フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)
- ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

蛇の目ミシン工業株式会社

〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1 TEL. 03 (3277) 2071